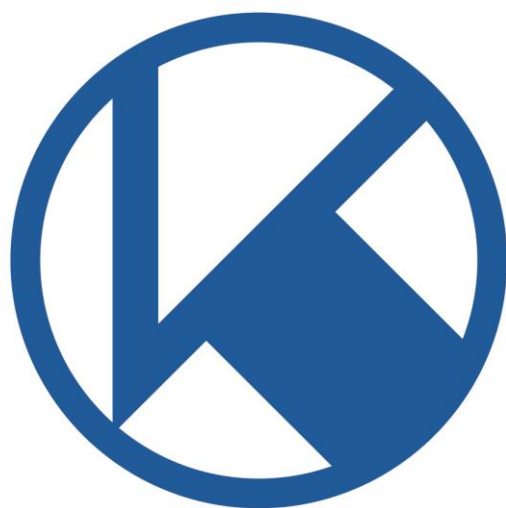


# 2024年（令和6年）度 事業報告書



学校法人こおりやま東都学園

# CONTENTS

1. 法人の概要	3
2. 入学定員及び学生数	4
3. 役員及び評議員ならびに教職員の概要	5～6
4. 校地及び校舎	6～7
5. 事業の概要	7～13
5-1 進級・卒業・留年及び退学者の状況	(9)
5-2 学校説明会等参加者	(9)
5-3 学生募集状況	(10)
5-4 キャリア就職支援	(10～12)
5-5 国家試験の状況	(12)
5-6 奨学金・修学資金受給状況	(12～13)
6. 各学科の事業概要	14～22
6-1 メディカルスポーツ柔道整復学科	(14～15)
6-2 作業療法学科	(15～16)
6-3 理学療法学科	(16～17)
6-4 介護福祉学科	(17～19)
6-5 こども未来学科	(19～20)
6-6 日本語学科	(20～21)
6-7 国際日本語学科	(21～22)
7. 附帯教育事業	22～28
7-1 キッズ東都学園保育園	(22～23)
7-2 キース鍼灸整骨院	(23)
7-3 介護職員初任者研修所・介護実務者研修所	(23～24)
7-4 わんぱく東都学園 児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所	(24～26)
7-5 にじいろ東都学園ユーススクール	(26～28)
8. 財務の概要	28～34
8-別表1 貸借対照表	(29～30)
8-別表2 事業活動収支計算書類	(31～32)
8-別表3 財産目録	(33)
8-別表4 監査報告書	(34)

# 2024年（令和6年）度 事業報告書

## 1. 法人の概要

学校法人こおりやま東都学園郡山健康科学専門学校は、教育基本法および学校教育法に則り、1994年（平成6年）4月に東都国際ビジネス専門学校の前身校を開校、1998年（平成10年）4月には作業療法学科・理学療法学科・介護福祉学科を有する専門課程を設置し、本学の基盤を築いてまいりました。2003年（平成15年）3月には法人名称および学校名称を現在のものへ改称し、以来、医療・福祉分野における高度専門職業人の育成を教育理念に掲げ、教育研究の質的向上と地域社会への貢献を重視した取り組みを継続しております。

2004年4月には国際交流センターを設置し、海外協定校との学术交流や国際的識者を招いた講演会等を通じて、国際的視野を持つ人材の育成と文化的教養の涵養に努めております。

2005年4月には柔道整復学科（現：メディカルスポーツ柔道整復学科）を新設し、国家資格である柔道整復師の養成を開始するとともに、付属施術所「キース鍼灸接骨院」を開設。教育現場における実践的な学習環境を提供すると同時に、地域医療に資する機能も果たしております。

その後も、応用理学療法学科（2007年開設／2015年募集停止）、こども未来学科（2015年開設）、日本語学科（2019年開設）、介護福祉士実務者研修および初任者研修（2021年以降開講）など、社会ニーズの変化に対応した学科および教育課程の拡充を図ってまいりました。

保育分野においては、2017年に内閣府認定の企業主導型保育施設を開設。2023年には郡山市認可保育施設「キッズ東都学園保育園」として再編し、従業員ならびに地域住民の子育て支援体制を強化いたしました。

地域連携の一環として、2020年には特定障害児通所支援事業所「わんぱく東都学園放課後等デイサービス」を開設し、障がいを持つ就学児の支援を行っております。また、2023年にはフリースクール型のユース支援機関「にじいろ東都学園ユーススクール」を設置し、多様な背景を持つ子どもたちの居場所づくりに取り組んでおります。

さらに、2024年度からは「長期履修サポート制度」を導入し、さまざまなライフステージの学生が無理なく学業を継続できる柔軟な教育体制を構築。2025年10月には日本語学科の定員を現行の120名から180名へ増員する予定です。

また同年度、郡山市より未就学児を対象とした児童発達支援事業所の指定を受け、「わんぱく東都学園児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所」として多機能型事業所への移行を果たし、発達段階に応じた一貫した療育支援の提供体制を強化しております。

今後においては、2025年4月に予定される広域通信制高等学校「つくば開成高等学校 郡山校」の開設準備を進めるとともに、2024年度にプレオープンした地域連携型の食育支援事業「まんまー東都学園こども食堂」を本格稼働させ、子どもから高齢者までを対象とした地域福祉活動のハブ機能を果たしてまいります。

## 2. 入学定員及び学生数

(令和7年5月1日現在)

学校名	学 科 名	入学年度	修業年限 (年)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	在学者数 (人)
郡山健康科学専門学校	介護福祉学科	令和6年度	2	33	66	53
		令和7年度	2	33		
	作業療法学科	令和4年度	4	24	96	64
		令和5年度	4	24		
		令和6年度	4	24		
		令和7年度	4	24		
	理学療法学科	令和4年度	4	66	264	191
		令和5年度	4	66		
		令和6年度	4	66		
		令和7年度	4	66		
メディカルスポーツ柔道整復学科	令和5年度	3	24	72	50	
	令和6年度	3	24			
	令和7年度	3	24			
応用理学療法学科	平成26年度	3	(H29年度から募集停止中)			
	平成27年度	3				
	平成28年度	3				
こども未来学科	令和6年度	2	33	66	37	
	令和7年度	2	33			
日本語学科(1.5年課程)	令和6年度	1.5	30	60	35	
	令和7年度	1.5	30			
日本語学科(2年課程)	令和6年度	2	30	60	57	
	令和7年度	2	30			
国際日本語学科	令和7年度	1	10	10	5	
	合 計				694	492
東都国際ビジネス専門学校	休校中					

### 3. 役員及び評議員並びに教職員の概要（令和7年5月1日現在）

#### 1) 役員 8人（理事6人、監事2人）

理事長	大本 研二	監事	谷口 英太郎
理事（学校長）	渡辺 信英	監事	谷本 佳隆
理事	橋本 充		
理事	皆藤 宗郎		
理事	小林 麻衣		
理事	小林 優衣		

#### 2) 評議員 13人

評議員	下野 江之介	評議員	千葉 正久
評議員	橋本 充	評議員	窪木 守
評議員	佐藤 英司	評議員	永山 千夏
評議員	小林 博美	評議員	小尾 勉
評議員	田之室 匡	評議員	高野 真一
評議員	荒木 芳一	評議員	川崎 萌絵
評議員	羽川 孝幸		

#### 3) 教職員の概要（令和7年5月1日現在）

##### (1) 郡山健康科学専門学校

学校長	1人
専任教員数	39人
（内訳）理学療法学科	9人
作業療法学科	6人
ゲイカスポーツ柔道整復学科	8人
こども未来学科	6人
介護福祉学科	5人
日本語学科	4人
国際日本語学科	3人

専任職員数	3人
非常勤職員数	5人
嘱託職員	2人
派遣職員	1人

##### (2) キッズ東都学園保育園

園長	1人
管理者補佐	2人
副園長	1人
主任	1人
常勤保育士	4人
非常勤保育士	2人

##### (3) キース鍼灸接骨院

院長	1人
----	----

管理者補佐	2人
兼任職員	2人
(4) わんぱく東都学園放課後等デイサービス	
管理者 (兼任)	1人
管理者補佐	2人
児発管	1人
主任	1人
常勤職員	2人
非常勤職員	3人
兼任職員	11人
(5) にじいろ東都学園ユーススクール	
管理者	1人
管理者補佐	2人
兼任職員	62人
(6) 学園本部	
理事長	1人
本部職員	4人
本部付職員	1人
本部付職員 (兼任)	1人
出向職員	1人

#### 4. 校地及び校舎 (平成29年5月1日現在)

##### 1) 郡山健康科学専門学校

###### 校地 (㎡)

郡山市図景二丁目 74、75、76	1,106.6
81-1	563.13
81-2	329.40
106、107	3,244.26
99-1	2.24
100-1	18.82
103-1	50.00
郡山市小原田五丁目 84	485.00
<b>(合計)</b>	<b>5,799.45</b>

###### 校舎 (㎡)

郡山市図景二丁目 74、75、76	1,461.68
106	2,046.49
107	7,576.31
<b>(合計)</b>	<b>11,084.48</b>

##### 2) 借用

###### 土地 (㎡)

郡山市図景二丁目 88	991.71 (駐輪場)
郡山市小原田二丁目 98-1	313.91 (学生寮)
<b>(合計)</b>	<b>1,305.62</b>

## 建物 (㎡)

郡山市小原田二丁目 98-1	278.24 (学生寮)
(合 計)	278.24

## 5. 事業の概要

### 1) 4月1日(土) 入学式

ホテルハマツにおいて、入学式挙行。

入学者数 129 名 (学科別内訳：こども未来学科 11 名、介護福祉学科 18 名、メディカルスポーツ柔道学科 10 名、作業療法学科 14 名、理学療法学科 42 名、日本語学科 20 名、国際日本語学科 14 名)

### 2) 4月3日(水)～4月5日(金) 新入生・在校生ガイダンス

### 3) 4月9日(火)～4月12日(金) 海洋リハビリテーション研修

学術交流協定校である琉球リハビリテーション学院沖縄県国頭郡・那覇市) 海洋リハビリテーション研修を実施。参加対象は、医療系学科メディカルスポーツ柔道学科、作業療法学科および理学療法学科各 2 年生、計 66 名が参加。

### 4) 6月11日(火)、7月9日高等学校教諭対象の学校説明会

7 校 (来校 6 校、web1 校) の進路指導部教諭の方々に参加していただき、本学についてより理解を深めていただくとともに、生徒に進路指導を行なう上で必要な質疑応答・情報交換を行った。今年度の入学試験と指定校推薦入試の本校の考え方について具体的な内容を説明。また、参加された各高等学校から入学している在校生との面談の場を設け、どのような学校生活を送っているかを直接知る機会が得られたと大変好評であった。

### 5) 7月13日東都祭を開催した。

東都祭では、学業展示や多彩なプログラムをとおして学生は多くの貴重な経験を積むことができました。また、郡山市内の就労支援事業所 (6 事業所) にも販売ブースの出店協力をいただき、当事者の方が作られたパンやお菓子、おにぎり・惣菜、農作物などを学生や一般来校者の方の多くの方に購入いただきました。

### 6) 7月19日(金) 就職説明会

ビッグパレットふくしまにて開催。参加者 97 企業が参加。卒業見込み学生はこども未来学科 19 名、介護福祉学科 25 名、メディカルスポーツ柔道学科 33 名、作業療法学科 29 名、理学療法学科 53 名)

### 7) 8月1日(木)～8月9日(金) 前期末試験

### 8) 11月5日(火) スポーツ大会

郡山カルチャーパークアリーナを会場に日本語学科、国際日本語学科を含む 7 学科合同にて開催。

### 9) 12月10日(火) 第1回卒業判定会議

97 名 (最終 71 名、仮 26 名) が卒業判定。

内訳：メディカルスポーツ柔道整復学科 26 名 ※正規授業途中のため (仮) とする。

作業療法学科 28 名、理学療法学科 43 名

留年者は 7 名及び退学者 4 名

留年者内訳 (最終学年のみ)：理学療法学科 7 名

退学者内訳 (最終学年のみ)：作業療法学科 1 名、理学療法学科 3 名

### 10) 1月31日(月)～2月10日(月) 後期末試験

### 11) 2月17日(月)～2月18日(火) 解剖学見学実習

日本歯科大学新潟生命歯学部において、解剖学見学実習を実施。参加者は、メディカルスポーツ柔道学科 2 年生 24 名、作業療法学科 2 年生 14 名及び理学療法学科 2 年生 54 名、引率教員 7 名、合計 99 名の参加で実施した。

### 12) 3月4日(火) 第2回卒業判定会議

89名が卒業判定。

内訳：こども未来学科 16名、介護福祉学科 25名、日本語学科 14名、  
国際日本語学科 12名、メディカルスポーツ柔道整復学科 22名（最終）

留年者は4名及び退学者3名

留年者内訳（最終学年のみ）：こども未来学科 2名、介護福祉学科 1名、  
メディカルスポーツ柔道整復学科 2名、国際日本語学科 2名

退学者内訳（最終学年のみ）：こども未来学科 1名、メディカルスポーツ柔道整復学科 7名

13) 3月14日（金）卒業式・卒業記念パーティー

ホテルハマツにて卒業式および卒業記念パーティー挙行。保護者、来賓、非常勤講師をお招きして挙行。

卒業者は160名（学科内訳：こども未来学科 16名、介護福祉学科 25名、柔道整復学科 22名、作業療法学科 28名、理学療法学科 43名、日本語学科 14名 IJL12名）、来賓出席 15名、非常勤講師出席 4名であった。

また、卒業式後に初めて開催した卒業記念パーティーには保護者2名も出席した。

## 5-1 各学科進級・卒業・留年及び退学者の状況

(人)

学 科	学年	在籍者	進級者	卒業者	留年者	退学者
こども未来学科	1	11	10		1	0
	2	19		16	2	1
介護福祉学科	1	18	18		0	0
	2	26		25	1	0
メディカルスポーツ 柔道整復学科	1	10	9		0	0
	2	25	24		1	0
	3	31		22	2	7
作業療法学科	1	14	13		0	1
	2	14	14		0	0
	3	25	21		3	1
	4	29		18	0	1
理学療法学科	1	42	36		3	3
	2	52	5		2	5
	3	60	55		3	2
	4	53		43	7	3
日本語学科 <1.5年>	1年	33	33		0	0
	1.5年	0			0	0
日本語学科 <2年>	1年	22	22		0	0
	2年	14		14	0	0
国際日本語学科	1年	14		12	2	0
計		512	260	150	27	24
2023年度		562	336	189	13	24

## 5-2 学校説明会等参加者数

(人)

開催日時	種別	参加者	開催日時	種別	参加者
4月27日	体験入学	8	9月21日	入試対策セミナー	51
5月18日	学校説明会	28	10月5日	学校説明会	8
6月8日	体験入学	40	10月26日	体験入学	8
6月22日	学校説明会	27	11月16日	学校説明会	0
7月6日	オープンキャンパス	32	11月23日	入試対策セミナー	6
7月20日	オープンキャンパス	62	12月7日	体験入学	7
7月28日	保護者のための学校説明会	21	12月21日	個別相談会	0
8月10日	学校説明会	32	1月18日	学校説明会	7
8月25日	オープンキャンパス	74	2月15日	体験入学	14
9月7日	体験入学	12	3月22日	オープンキャンパス	46

## 5-3 令和7年度生学生募集

(人)

実施日／出願種別		こども未来学科	介護福祉学科	柔道整復学科	作業療法学科	理学療法学科	計
8月25日	社会人特別キャリア アチェンジ入試1期			1			1
10月11日	総合型選抜入試	6	2	4	1	4	17
10月19日	指定校推薦1期	14	13	10	11	29	77
	公募推薦1期		1			3	4
	就学支援型1期	1		1			2
12月14日	指定校推薦2期					2	2
	公募推薦2期					1	1
	一般1期	2	1		2	2	7
	就学支援型2期						0
	社会人特別キャリア アチェンジ入試2期	1					1
2月1日	一般2期	1	1		1		3
	社会人特別キャリア アチェンジ入試3期						0
3月5日	特別選抜入試			1			1
3月11日	特別選抜入試					1	1
合 計	出願者	25	18	17	15	42	117
	欠席者	0	0	0	0	0	0
	合格者	25	18	17	15	42	117
	不合格者	0	0	0	0	0	0
	辞退者	1	0	2	2	1	6
	入学者(5学科)	24	18	15	13	41	111
	入学生(JL、IJL)	※日本語学科 67 国際日本語学科 3 = 計 70					

※日本語学科 (JL) 外国人留学生 入学生計 67 人 (2025 年 10 月生含む)

国際日本語学科 (IJL) 外国人留学生 入学生計 3 人

## 5-4 キャリア就職支援

## 1) キャリア就職支援

キャリア就職支援の一端として、令和6年度就職説明会を7月19日(月)ビッグパレットふくしまにて開催。参加施設数97施設、学生参加者計118名(学科内訳:NT14名、CCW25名、MSJ8名、OT26名、PT97名)

## 2) 求人件数は次の通り

## (1) こども未来学科

北海道7件、東北56件(福島県を除く)、福島県67件、関東218件、甲信越4件、北陸0件

東海 4 件、近畿 10 件、中国 1 件、九州 2 件、沖縄県 2 件

合計 371 件、求人募集人数 2,914 人、求人倍率 182.1 倍

〈施設区分：保育園 252 件、こども園 39 件、乳児院 3 件、幼稚園 22 件、病院 3 件、児童養護施設 3 件、障害者施設 5 件、複合施設 13 件、グループホーム 2 件、社会福祉協議会 2 件、デイケアセンター 1 件、接骨院・整骨院 4 件、その他 15 件〉

## (2) 介護福祉学科

北海道 2 件、東北 50 件（福島県を除く）、福島県 108 件、関東 124 件、甲信越 11 件、北陸 2 件、東海 15 件、近畿 7 件、中国 2 件、四国 1 件、九州 0 件、沖縄県 0 件

合計 322 件、求人募集人数 2,263 人、求人率 90.5 倍

〈施設区分：病院 39 件、診療所 1 件、介護老人保健施設 66 件、特別養護老人ホーム 72 件、グループホーム 5 件、社会福祉協議会 5 件、訪問介護事業所 1 件、デイケアセンター 1 件、障害者施設 16 件、複合施設 88 件、一般企業 6 件、その他 18 件、接骨院・整骨院 1 件〉

## (3) 柔道整復学科

北海道 1 件、東北 6 件（福島県を除く）、福島県 23 件、関東 75 件、甲信越 1 件、北陸 0 件、東海 14 件、近畿 11 件、中国 2 件、四国 0 件、九州 5 件、沖縄県 0 件

合計 138 件、求人募集人数 2,146 人、求人倍率 82.5 倍

〈接骨・整骨院 108 件、病院 3 件、診療所 2 件、介護老人保健施設 2 件、特別養護老人ホーム 5 件、一般企業 9 件、複合施設 3 件、その他 6 件〉

## (4) 作業療法学科

北海道 14 件、東北 50 件（福島県を除く）、福島県 57 件、関東 393 件、甲信越 12 件、北陸 1 件、東海 16 件、近畿 37 件、中国 8 件、四国 1 件、九州 8 件、沖縄県 1 件

合計 599 件、求人募集人数 5,934 人、求人倍率 211.9 倍

〈施設区分：病院 460 件、診療所 16 件、介護老人保健施設 30 件、特別養護老人ホーム 5 件、グループホーム 1 件、社会福祉協議会 2 件、訪問介護事業所 2 件、デイケアセンター 1 件、障害者施設 5 件、複合施設 35 件、一般企業 10 件、その他 28 件、接骨院・整骨院 4 件〉

## (5) 理学療法学科

北海道 11 件、東北 52 件（福島県を除く）、福島県 58 件、関東 386 件、甲信越 12 件、北陸 1 件、東海 14 件、近畿 38 件、中国 4 件、四国 1 件、九州 6 件、沖縄県 1 件

合計 584 件、求人募集人数 7,193 人、求人倍率 167.2 倍

〈施設区分：病院 440 件、診療所 19 件、介護老人保健施設 31 件、特別養護老人ホーム 6 件、グループホーム 1 件、社会福祉協議会 1 件、訪問介護事業所 2 件、デイケアセンター 1 件、障害者施設 4 件、訪問看護 0 件、複合施設 34 件、一般企業 12 件、接骨院・整骨院 6 件、その他 27 件〉

## (6) 一般企業からの求人

北海道 1 件、東北 4 件（福島県を除く）、福島県 20 件、関東 28 件、甲信越 5 件、北陸 1 件、東海 1 件、近畿 0 件、中国 0 件、四国 0 件、九州 0 件、沖縄県 0 件

合計 60 件、求人募集数 538 人

## (7) 公務員の求人

東北 0 件（福島県を除く）、福島県 0 件、関東 0 件、九州 0 件 合計 0 件、求人募集数 0 人

## 3) 就職実績は次の通り

### (1) こども未来学科

卒業者 16 名、就職斡旋希望者 16 名、就職決定者 16 名、就職率 100%

就職先：福島県 13 名、東京都 2 名、大阪府 1 名

### (2) 介護福祉学科

卒業者 25 名、就職斡旋希望者 25 名、就職決定者 25 名、就職率 100%

就職先：宮城県 1 名、福島県 23 名、東京都 1 名

### (3)柔道整復学科

卒業者 22 名、就職斡旋希望者 20 名、就職決定者 20 名、就職率 100%

就職先：福島県 7 名、茨城県 3 名、東京都 7 名、埼玉県 1 名、千葉県 1 名、神奈川県 1 名

### (4)作業療法学科

卒業者 28 名、就職斡旋希望者 21 名、就職決定者 21 名、就職率 100%

就職先：秋田県 1 名、福島県 12 名、茨城県 1 名、栃木県 1 名、東京都 1 名、埼玉県 1 名、神奈川県 4 名

### (5)理学療法学科

卒業者 43 名、就職斡旋希望者 36 名、就職決定者 36 名、就職率 100%

就職先：岩手県 1 名、福島県 22 名、茨城県 1 名、長野県 1 名、東京都 4 名、神奈川県 3 名、栃木県 1 名、埼玉県 3 名

## 5-5 国家試験の状況

国家試験の状況は次の通り

●郡山健康科学専門学校（現役生）

学 科	受験者数 (人)	合格者数 (人)	不合格者	合格率 (%)	全国平均 (養成校%)
こども未来学科	16	16※1		100%	
介護福祉学科	25	24	1※2	96.0%	78.3%
柔道整復学科	17	7	10	41.1%	57.8%
作業療法学科	28	21	7	75.0%	85.8%
理学療法学科	43	36	7	83.7%	89.6%

※1 こども未来学科においては、保育士資格は卒業時自動取得となっている。

※2 介護福祉学科においては、卒業時共通試験において全員合格となっている。(当面暫定措置)

## 5-6 奨学金・修学資金受給状況

### (1)-①独立行政法人日本学生支援機構 奨学金制度（全学生対象）

学科/学年	第一種	第二種	給付	合計		備 考	
						①給付+貸与型併用	②第一種+第二種併用
こども未来学科	1	4	2	2	8	12	①2名 ②0名
	2	2	2	0	4		①0名 ②2名
介護福祉学科	1	3	6	2	11	18	①2名 ②0名
	2	3	2	2	7		①1名 ②0名
MS 柔道整復学科	1	1	0	2	3	52	①1名 ②0名
	2	10	5	6	21		①4名 ②2名
	3	11	14	3	28		①2名 ②5名
作業療法学科	1	7	8	7	22	77	①6名 ②1名
	2	4	2	2	8		①2名 ②0名
	3	8	8	1	17		①1名 ②1名

	4	10	15	5	30		①5名 ②4名
理学療法学科	1	16	10	6	32	180	①6名 ②4名
	2	18	19	10	47		①7名 ②3名
	3	19	22	12	53		①8名 ②2名
	4	16	24	8	48		①0名 ②6名
合 計		132	139	68	339		①47名 ②30名

(1)-② 独立行政法人日本学生支援機構 授業料等減免事業金制度 (全学生対象)

交付額 32,075,700 円

実人数 70 人 (授業料 ⇨ 満額 37名、3分の2 23名、3分の1 9名、  
4分の1 1名)

(入学金 ⇨ 満額 12名、3分の2 2名、3分の1 3名  
4分の1 1名)

(2) 福島県介護福祉士修学資金等貸付制度 (介護福祉学科対象)

学科/学年		採用者		備考
介護福祉学科	1	3	10	
	2	7		

(3) 福島県保育士修学資金等貸付制度 (こども未来学科対象)

学科/学年		採用者		備考
こども未来学科	1	5	7	
	2	2		

(4) 福島県理学療法士等修学資金制度

学科/学年		採用者		備考
作業療法学科	1	5	17	
	2	1		
	3	5		
	4	6		
理学療法学科	1	8	51	
	2	15		
	3	17		
	4	11		

(5) こおりやま東都学園奨学金制度 (全学生対象)

採用種別	採用者	採用者 学科・学年	備考
第一種	0		
第二種	0		
第三種	4	30 万円 (CCW1年:1、OT3年:1名、PT1年:2名、	
その他	0		

## 6. 各学科の事業概要

### 6-1 【ディカルスポーツ柔道整復学科】

定員数： 72名（1年生24名、2年生24名、3年生24名）

学生数： 66名（1年生10名、2年生25名、3年生31名） ※2024年5月1日時点

教員数： 8名（専任教員6名、助教2名）

#### 1. 2024年度の振り返りについて

##### 1) 退学者について

在籍者66名に対して、退学者8名となった。このうち7名は3年生での退学である。現状の当学科の課題が明確となった。退学者のうち3名は留年生であったが、前期開始当初から退学の意向を示しており、それを変化させることができず、前期途中での退学となった。その他4名の退学者は実習・実技科目を含む複数科目が不合格となり留年（卒業できない）となり、継続して資格取得に挑む意思が低く、進路変更のため退学となった。

これらの課題としては、3年間を通じて、資格取得および現場に出ることへの意思・関心が持てる教育支援や国家試験に向けた適切な進級・卒業判定、その判定を到達できるための日々の学習支援が十分でなかったと考える。

##### 2) 学生募集について

前年度（2024年度）入学生10名に対し、2025年度は入学生15名の微増となった。

募集計画にて、入学歴の多い高校への特典を加えていただいたこと、学生募集イベントで学生に近い目線で関わってくれた教員の成果と捉える。

しかしながら、定員には程遠い入学者数であるため、柔道整復師またはスポーツトレーナーとしての意欲ある学生を入学に結びつけられるように、学科一丸となって取り組んでいく。

また、前述のとおり、入学した学生については、入学前から人物像などの把握、入学後の支援のポイントを意識し、退学を抑制できるよう関わっていききたい。

#### 2. 在籍状況について（中退復学者を含めて報告）

退学者8名（退学率12.1%）、留年者3名、卒業生22名

#### 3. 国家試験結果

現役受験者17名、合格者7名、合格率41.1%

全国平均 57.8%

※辞退者は国家試験受験のため聴講を希望している。

#### 4. 臨床実習

1年次 臨床実習Ⅰ キース鍼灸接骨院30時間、海洋リハビリテーション15時間

2年次 臨床実習Ⅱ キース鍼灸接骨院30時間、山岳リハビリテーション15時間

3年次 臨床実習Ⅲ キース鍼灸接骨院90時間

昨年度に引き続き山岳リハビリテーションを臨床実習の一環として実施した。

内容についても、より実践の経験ができる内容を取り入れ実施することができた。

今後は、他の学科と同様に、学外施設での実習を導入できるよう、県内・県外の接骨院との連携を構築していきたい。

## 5. 就職

卒業生 22 名、斡旋辞退者 10 名、就職者 7 名（就職率 100%）。

就職者 7 名中 2 名が県内、5 名が県外となった。

## 6. その他

2025 年度に向けて

- ・国家試験目標：合格率 100%。3 年生への正規授業及び課題での補習を強化して取り組んでいく。
- ・3 年生進級までに基礎学力を向上させる。1 年、2 年の授業改善および補習などの学習支援を実施する。
- ・国家試験に挑み、やり通せるための人物育成。様々な体験やイベント参加、ボランティアなどの社会経験を積み重ね、粘り強さを身につける。

### 6-2 【作業療法学科】

定員数： 96 名（1 年生 24 名、2 年生 24 名、3 年生 24 名、4 年生 24 名）

学生数： 82 名（1 年生 14 名、2 年生 14 名、3 年生 25 名、4 年生 29 名）※5 月 1 日時点

教員数： 6 名

#### 1. 2024 年度の振り返りについて

2024 度より学科長が代わるなど体制的な変化があった年度となった。国家試験の合格率に関しては学科長の見通しの甘さの一言に尽きる。今年度は昨年度の経験を踏まえ、各学年の目標や計画を定め取り組んでいくことが求められる。また、その他の体制の変化として教員が学科の業務以外に複数の業務を掛け持ちせざるを得ない教員もいたため、最も重要な学生教育への取り組みがおろそかになってしまったこと、それを踏まえて途中で学生教育のリカバリーができなかった点も反省点として挙げられる。また、教員間での学生教育の現状の認識に差があり、改めて学科内の共通認識の統一や、取り組みの強化が図れるよう、組織としてのガバナンスの強化が必要になる。

#### 2. 在籍状況（中退復学者を含めて報告）

在籍者 82 名に対し、退学者 3 名（退学率 3.7%）、留年者 3 名（内休学 1 名）、進級者 48 名、卒業生 28 名となった。退学者のうち、4 年生の学生は昨年度留年し、精神的な不調を訴え、通院を継続しながら臨床実習に参加したものの 1 週間で通えなくなり、次年度の実習参加も困難なことから退学となった。3 年生の学生は学力不振で、ご家族含めて面談などの対応をしたものの、最終的には進路変更を理由に退学となった。1 年生の学生は学力不振のほか、療養疾患と精神的な不調もあり、ご家族と面談した結果治療に専念するため退学となった。

令和 6 年度の留年者は 3 年生 3 名で、留年した 3 年生の学生のうち 1 名は 1 年次に 1 度留年を経験しているほか、昨年の 3 年次にも学業と臨床実習が原因で留年して昨年度は休学していた。保護者とも面談した結果休学を選択し、昨年度は介護初任者研修を前期に受講し、後期は福祉施設でアルバイトを実施することも教員がサポートし、実習に向けた社会経験を積む支援をしたうえで今年度復学となる。もう 1 名も 1 年次に留年をしており、講義科目と臨床実習で単位未修得となり留年となる。臨床実習では自己中心的な態度が指摘されているため、今年度は未修得単位の修得とともに障がい者のホームヘルパーのアルバイトを勧め、利他的な態度の習得をサポートしていく。最後の 1 名は 3 年次の臨床実習で社会性や実習の準備で指摘を受け、臨床実習の単位を落として留年し休

学を選択した。休学中も何らかのサポートをしていきたいと考えている。

### 3. 国家試験

現役生受験者 28 名、合格者 21 名、合格率 75.0%

既卒生受験者 3 名、合格者 1 名、合格率 33.3%

全国平均は、総合 85.8%、新卒 92.5%であった。

現役で不合格となった 7 名のうち 2 名は留年経験者、残りの 5 名も 1 年次から成績下位であった。これまで学科では退学者の予防を強く意識しており、退学率は近年低下してきた一方で、国家試験の合格率が不安定な状況である。改めて学力面の強化について取り組んでいくことが今後の重点課題となる。

令和 7 年度は 3 月から国家試験対策を始め、学生の基礎医学を中心に知識土台の強化に取り組んでいる。国家試験過去問や業者模試の過去問を定期的の実施し、学習面の進捗状況や課題を客観的に分析しながら進めていく予定であるほか、各学年からの取り組みも計画して進めていく。昨年度同様に、全国リハビリテーション教育協会国家試験コンテンツの利用や、合同講義を受講するなど学びの多様化を進めていきたい。

### 4. 臨床実習

一部、院内での新型コロナ感染により病棟の立ち入りが制限されることがあったが、それについても実習施設と連携し、指導を仰ぎながら実習を継続することができた。

近年、学内での OSCE を外部講師の協力を得て実施するようになり、協力いただいている施設とはより深いコミュニケーションをとることができ、臨床実習にも生かしている。今後もこれまで協力いただいている病院・施設の先生以外にも協力を仰ぎ、学生指導を通じた関係性の構築も進めていきたい。

### 5. 就職状況

卒業生 28 名、幹旋辞退者 7 名、就職者 21 名（就職率 100%）、12 名が県内就職、9 名が県外就職と、これまでにくらべ県外就職希望者が増加した。

### 6. その他

昨年度より学内全体の体制が変わったこともあり、改めて学科内の体制をしっかりと作っていく必要がある。今年度は国家試験合格率を向上させるとともに、学年ごとの強化体制を構築に尽力していく。

作業療法学科は、令和 6 年度までの 24 年間で 553 名の卒業生を輩出しており、今後も継続的な活動を行うことで、実習施設確保、非常勤講師としての招聘、専任教員確保に有益な活動としたい。

## 6-3 【理学療法学科】

定員数：272 名（1 年生 66 名、2 年生 66 名、3 年生 66 名、4 年生 60 名）

学生数：207 名（1 年生 42 名、2 年生 52 名、3 年生 60 名、4 年生 53 名）※5 月 1 日時点

教員数：9 名

#### 1. 2024 年度の振り返りについて

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度まで学内での実施が中心であった実習が、2024 年度より、学外での実施が中心となった。2024 年度の実習では、特に 4 年次の臨床実習Ⅱにて、厳し

い評価を頂くことが多かった。また、国家試験においても、昨年度に続き低い合格率となってしまった。  
新入学生について、2年連続の40人台だった。

## 2. 在籍状況（中退復学者を含めて報告）

- ①1年生在籍者42名 進級36名、退学者3名、留年3名
- ②2年生在籍者52名 進級45名、退学者5名、留年2名
- ③3年生在籍者60名 進級55名、退学者2名、留年3名
- ④4年生在籍者53名 卒業者43名、退学者3名、留年7名

## 3. 国家試験結果

新卒受験者43名 合格者36名 合格率83.7%（全国平均95.2%）  
既卒受験者13名 合格者6名 合格率46.2%

## 4. 臨床実習

2年次見学実習：9月2日（月）～9月4日（水） 3日間  
3年次臨床実習Ⅰ：11月25日（月）～12月20日（金） 4週間  
4年次臨床実習Ⅱ：前期5月13日（月）～7月5日（金） 8週間  
後期8月19日（月）～10月11日（金） 8週間  
\*学内演習と学外実習を併用して実施

## 5. 就職状況

国家試験合格者36名中36名が内定

## 6. その他

今年度は臨床実習では特に情意面についての指導を受けることが多かったことから、実技科目の増える2年次より指導をしていく。

国家試験対策については基礎的な部分の理解不足が大きく影響していると考えられるため、1年次の基礎科目について、復習できる環境を作っていく。

学生募集に関しては、在校生への対応が手薄とならないよう、積極的広報の指示の元、学科長、学科長補佐を中心に募集活動を行う。

### 6-4 【介護福祉学科】

定員数： 66名（1年生33名、2年生33名）  
学生数： 57名（1年生27名、2年生30名）※5月1日時点  
教員数： 5名

## 1. 2024年度の振り返りについて

### 教育活動について

介護福祉士基礎科目に加え、専門的な講義・演習の充実を図り、介護福祉士として必要な知識・技術・倫理観の習得に重点を置いて指導を行った。そのほか、県内で行われている介護ロボット普及推進活動、介護DXに関する特別講義も開講し、介護現場で導入されている最新機器に触れることもでき、学生の

積極的な学習への取り組みが見られた。

#### 学外実習について

介護実習では、施設・事業所と連携し実践的な学びを深めることができたが、感染症により補講を余儀なくされた学生に対しては、学内実習の充実を図り、それぞれ次回の実習に繋げられるよう指導を行った。学生は、それぞれに課題を発見し学びに変えていく姿勢が見受けられ、また、実習報告会では、現場での経験を通して得た気づきや反省点を共有し、学び合う姿勢が見られた。

社会福祉現場実習では、市内及び県内の福祉活動の実際を学ぶことができた。高齢者のみならず障害者、子どもの福祉に至るまで現場を見学させていただく機会をいただき、学生にとっても広義での福祉を学べる良い機会となった。

#### 国家試験対策について

国家試験は合格率 100%には至らず残念な結果であったが、今後は個別フォローの充実、模擬試験の結果をもとに、理解が不十分な学生に対しては早期にピックアップし、補習や個別指導を行う。そして、学生との定期面談から、精神面・学習面の両方からサポートできる体制を強化する。

国家試験対策は、模擬試験の回数と質の見直しを行い、模試は回数を重ねるだけでなく、解説・振り返りの時間を十分に取り、学びにつながるよう改善する。また、出題傾向に沿った最新の問題形式を取り入れるよう、問題選定にも工夫を加える。

#### 2. 在籍状況（中退復学者を含めて報告）

2024 年度 1 年生 18 名（進級 18 名）、

2 年生 26 名（卒業 25 名、休学 1 名）

#### 3. 国家試験結果

25 名中 24 名合格（本校合格率 96%、全国養成施設合格率 66.7% ※留学生を除く 82.8%）

2024 年度国家試験合格点は 70 点であった。合格基準は以下のとおり。

- ・総得点 125 点に対し、60%を基準に補正が入った点数を満たしていること。
- ・11 科目すべてにおいて得点があること。

合格点を越えていても、11 科目のうち得点のない科目があれば不合格となってしまうことから、引き続き、国家試験対策中は模試による個々の弱点分析（自己分析）をし、グループ学習や個別指導により弱点科目の克服と得意科目の高得点を目指せるよう学生とかわる。対策は 1 年次より国試問題同様の練習問題をはじめ、2 年次には応用問題に対応できるよう逐次指導している。

#### 4. 臨床実習

実習Ⅱ（前期） 5 月 13 日（月）～5 月 31 日（金）うち 12 日間

感染症の影響により、最大で 4 日間全 3 名の学生に学内演習を実施する。

実習Ⅰ 6 月 4 日（火）～6 月 13 日（木）うち 5 日間

社会福祉現場実習 7 月 29 日（月）～8 月 1 日（木）社会福祉協議会

9 月 2 日（月）～9 月 5 日（木）福祉事務所

9 月 9 日（月）～9 月 12 日（木）社会福祉施設

感染症の影響により、最大で 2 日間 1 名の学生に学内演習を実施する。

実習Ⅱ（後期） 9 月 23 日（月）～10 月 25 日（金）うち 20 日間

実習Ⅰ-2 10 月 21 日（月）～11 月 22 日（金）うち 12 日間

## 5. 就職

25名中25名内定(学校斡旋希望100%、県内96%)

出身地またはその近辺に就職を希望する学生が多く、そのなかでも、実習施設に就職を希望する学生が多かった。また、昨年度同様、同施設に複数応募する様子(例:1施設に3名応募3名内定)も見られた。そのほか、関東(埼玉県)で1名内定をいただいている。

## 6. その他

### 実務者研修

2024年度11名の実績となった。

開講以降、ホームページ案内、電話、DM、施設訪問での案内で受講者募集をしている。

引き続き、学科教員をはじめ他部署の協力を得て、学外(学内含)募集活動を行い受講生を募集する。

### 初任者研修

2024年度20名の実績となった。

今年度は、こども未来学科、国際日本語学科からの受講者があり、前年度に比べ受講者が増えたため、学外(学内含)募集活動にも力を入れ、引き続きホームページ案内、電話、DM、施設訪問での案内を行う。

### 6-5【こども未来学科】

定員数： 33名 (1年生33名:2年生33名)

学生数： 30名 (1年生11名:2年生19名) ※5月1日時点

教員数： 6名

#### 1. 2024年度の振り返りについて

##### 【幼稚園免許取得について】

今年度より、豊岡短期大学通信学部で幼稚園免許取得を目指すことになり、近年、幼稚園免許を目指す学生がいない状況だったが、今年度は5名の学生が幼稚園免許を目指すことになった。しかし、前期で2名の学生が課題についていけなくなり、現在3名の学生が幼稚園免許取得を目指している。次年度は更に幼稚園免許取得を希望する学生が増える見込みのため、課題の進め方や学習環境など、今年度の反省を活かし来年度に向けて改善していきたい。

##### 【介護初任者研修について】

今年度は介護初任者研修も受講できるようになり、介護の知識、技術を身に付けたことで、施設実習では様々な場面で活かすことができた。次年度は介護初任者研修から介護実務者研修になるため、今後は、介護福祉士の国家資格取得も目指せる学生の育成や施設への就職に繋げていきたい。

##### 【学生支援について】

各学年、担任が頻繁に個別面談を行い学生の状況の把握に努め、特に課題のある学生に関しては、学科長も加わり保護者面談を行いながら家庭と連携し学生支援を行ってきた。精神面で問題や学習面で課題など一人一人抱えている課題が異なり、個々に応じた指導や支援を行いながら退学者の防止に努めてきたが、今年度は1名の退学者と2名の留年者を出す結果となった。2名の留年者は、次年度の資格取得を目指しているため、しっかりサポートし卒業を目指したい。

次年度も学科教員が学生の状況を把握し共有しながら、学生生活の支援、学習支援を行っていきたい。

## 2. 在籍状況

- 1年生在籍 11名(進級:10名、休学18名)
- 2年生在籍 19名(卒業16名、留年1名休学2名)

## 3. 国家試験結果

卒業と同時に保育士資格取得 16名

## 4. 臨床実習

保育実習Ⅰ(施設)

2024年6月3日(月)~6月15日(土)

(休憩を除く、実習実時間が80時間を満たす実習)

保育実習Ⅱ・Ⅲ

2024年10月7日(火)~10月18日(土)

(休憩を除く、実習実時間が80時間を満たす実習)

保育実習Ⅰ(保育所)

2025年2月10日(月)~2月25日(土)

## 5. 就職

保育所:12名

認定こども園:2名

障害者施設:1名

学童保育:1名

## 6. その他

### 6-6【日本語学科】

定員数 80名(2年コース40名、1年6ヶ月コース40名)

学生数 69名

【1学年】 2年コース 20名、 / 1.5年コース 35名

【2学年】 2年コース 14名

教員数 常勤5名、非常勤講師2名

#### 1. 2024年度の振り返りについて

2年生及び2年コースの1年生の教育面の反省点として、学生の能力に見合った学習内容の提供及び日本語能力が著しく低い学生に対する補講授業及び宿題を提供してこなかったことから、日本語能力検定試験の合格率が低くなってしまったと考える。また、学生主体となるような授業形態でなかったことから、学生の日本語会話力の向上も妨げとなっていた。上記のことから、学生たちより苦情も来てしまった。

1.5年コースにつきましては、学生が主体となるような授業提供を行うとともに、補講授業、課題などを課し日本語能力向上に努めている。

生活指導面での振り返りとして、学生が寮やアルバイト等について教員に話をしても、その内容を教員が他の教員に共有するのを忘れてしまったことや有耶無耶にしてしまったことにより学生からの不満が多々

あった。

教員の意識の問題として、よりよい日本語学科にするためには、どのようにしたら良いのか、また、日本語能力が低い学生に対してのフォローなどを考えてこなかったとの反省が科内から挙がった。

次年度に向けて、学生の能力に見合った学習内容の提供、学生が主体となる授業提供、学力及び生活面でのフォローを学生の身になり行うよう努める。

## 2. 在籍状況（中退復学者を含めて報告）

2024年度 1年生 55名(進級 55名) / 2年生 14名(卒業 14名)

## 3. 日本語能力試験結果

2024年12月実施

1年生 2年生

N2受験者数	6人	N3受験者数	3名
合格者	1人	合格者	0名
不合格者	5名	不合格者	3名
N3受験者7名	N4受験者数	17名	
合格者	4名	合格者	7名
不合格者	3名	不合格者	10名

## 4. 臨床実習

該当しない

## 5. 就職

該当者なし

進学者 14名

## 6. その他

なし。

## 6-7 【国際日本語学科】

定員数 10名（福祉ビジネスコース、日本語教師実践コース）

学生数 14名（1年生 14名） ※5月1日時点

教員数 3名

### 1. 2024年度の振り返りについて

本年度から開校となった本学科は、定員数を4名増で14名のスタートとなった。

就職、進学を希望する学生が、自らの将来をキャリアデザインし進路を決めて行くことができた。

また、今年は、初任者研修を受講にチャレンジし全員修了した結果、就職や進学に進む大きな架け橋となった。さらに救命救急講習会で緊急時の対応を学ぶことで、日本で役に立つ資格を取得したことが、留学生の学びの自信につながった。

課題としては、日本語教員がいない中での JLPT 対策については、苦戦した結果となった。これに関しては、もう一度対策を考える必要があると考えている。また、学科の目標としては大きなものはあったが、達成項目について具体的な数字の達成目標がなかったため、KPI を用いて実績や成果を数値化し、進捗状況を把握

していきたいと考えている。

2. 在籍状況（中退復学者を含めて報告）

14名

3. 日本語能力試験結果

N3：3名、

N4：1名

4. 臨床実習

該当しない

5. 就職

3名

進学

12名

6. その他

2年課程のホテル、観光ビジネス系コースの開設を予定している。2026年4月の開校に向けて準備を進めている。

7. 附帯教育部門

7-1【キッズ東都学園保育園】

定 員：19名（内訳 0歳児：6名、1歳児：6名、2歳児：7名）

登録利用児（人）数：14名

職 員 数：10名

1. 2024年度の振り返りについて

2024年度は、全職員が様々な外部、内部の研修に参加する機会を計画し保育の質の向上に努めてきた。小規模保育の特性を活かしながらの子どもとの関わり、保護者への子育て支援など保育を見つめ直す機会となった。また、理学療法学科や作業療法学科の先生方と連携し、保育活動の中で子どもの発達を別な視点からも捉える機会がもてたことで、保育がより充実したものとなった。次年度もさらなる保育の質の向上を目指していく。

保育業務の効率化を図るために2024年度から導入したICTシステム「コドモン」により、登降園管理や保護者への連絡、帳票管理が簡略化され、職員の業務負担の軽減と子どもや保護者に関わる時間の確保につながった。今後も業務効率化に取り組みながら、保育士の子育て支援につながる時間を増やしていきたい。

2. 利用実績

小規模保育事業として0. 1. 2歳児を対象に郡山市と連携した受け入れを行う。4月当初は、16名の在籍、7月に18名、8月に19名となり定員は充足。

3. 行事報告

実施した主な行事（実施記録を毎月報告書で提出）

4月：入園式、はじまりの会、お花見	5月：親子遠足
6月：歯科検診、内科健診、個別面談	7月：七夕会、人形劇鑑賞会、保育参観（1.2歳児）
8月：夏祭り、保育参観（1.2歳児）	9月：お月見会、親子運動会
10月：保育参観（0歳児）、歯科検診、内科健診	11月：園外保育
12月：クリスマス発表会	1月：お正月遊び
2月：豆まき会	3月：ひなまつり会、おわりの会

#### 4. 研修報告

外部研修：郡山市保育の質向上研修、キャリアアップ研修

内部研修：職員研修、学科の授業への参加、森川先生特別講演会参加

#### 5. その他

### 7-2 【キース鍼灸接骨院】

職員数：1名

#### 1. 2024年度の振り返りについて

2024年度は、営業日時や一人体制での営業といった変更がありましたが、前年度（利用件数：1895件、売上2,479,732円）よりも、利用件数（2219件）、売上（見込：2,897,589円）ともに増加となりました。

一人体制になり、利用者を待たせてしまう事が多々あり、施術内容や利用者対応等は来年度の課題となります。

次年度は、更に自己研鑽を行っていき、利用者満足度を上げ、利用者の増加を目指していきたいと考えております。

#### 2. 利用実績

利用件数：2,219件

売上（見込）：2,897,589円

※返戻等は含めず

#### 3. 行事報告

学園祭 柳メディカルサービス 貸与 酸素トラックルームの運営

#### 4. 研修報告

公益社団法人 福島県柔道整復師会保険研修会（9月、12月、3月）

東北厚生局及び福島県による集団指導（10月）

#### 5. その他

### 7-3 【介護職員初任者研修所・介護実務者研修所】

#### 1. 2024年度の振り返りについて

2024年度を受講生を増やすため、学園ホームページへのバナー及びページの作成、ロゴの作成を実施し

た。ホームページからの受講申込にも繋がっている。ダイレクトメールや FAX などは継続して実施した。

2024 年度はリスティング広告などを実施していなかったため、2025 年度は 4 月～6 月にかけてリスティング広告を実施予定。また、こども未来学科の学生の希望者も実務者研修を受講できるように変更し、受講生増につなげていく。

#### ○介護福祉士実務者研修科

定員：240 名（内訳 4 月生 80 名、7 月生、80 名、10 月生 80 名、1 月生 80 名）

教員：6 名

##### 1. 受講者数 合計 11 名

4 月生 5 名、 7 月生 6 名、10 月生 0 名、1 月生 0 名

##### 2. 運営状況

実務者研修の実績としては、2024 年度は受講生 11 名となり、2023 年度と比べ 7 名の減になった。

#### ○介護職員初任者研修科

定員：40 名（内訳 4 月生 40 名）

教員：7 名

##### 1. 受講者数 合計 19 名

4 月生 19 名

##### 2. 運営状況

今年度はこども未来学科 4 名、国際日本語学科 14 名の学生が受講しました。それぞれの学科の特長を活かし資格取得し、今後活かすことができたのではないかと考える。ホームページ案内、電話、DM、施設訪問での案内に加え、学内での募集活動（こども未来学科）にも力を入れたい。

#### 7-4 【わんぱく東都学園児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所】

定 員：10 名 / 1 日

登録利用児（人）数：38 名

職 員 数：9 名＋運転手 3 名 【令和 7 年 3 月 31 日現在】

※2025 年 1 月の児童発達支援の指定登録申請時の職員数（常勤兼務・非常勤兼務）：24 名

##### 1. 2024 年度の振り返りについて

2024 年 4 月に児童発達支援管理者が着任し、新規の利用児の受け入れを開始した。また 2024 年 4 月の全面的な報酬改定に合わせて運営規定等の見直しを行い、延長支援加算、児童支援員等加配加算、専門的支援体制加算等の請求を 7 月分から開始し、年間収益の上昇を目指してきた。情報発信として Instagram を開始し、HP も刷新した。

2025 年 1 月に郡山市より児童発達支援の指定を受け、「わんぱく東都学園 児童発達支援事業所・放課後等デイサービス事業所」として事業を開始した。ただし、放課後等デイサービスの利用登録数が 1 日の利用限度日数(15 人/日を超えない)に達する曜日も多いため、児童発達支援事業所の受け入れ可能人数は 1 日 1～3 名となっている。3 月に児童発達支援事業所の利用希望があり、4 月からの受け入れを始める。

##### 2. 利用実績

2024年11月に開所し、4年目を経過した。2024年度の月別の年間収入実績、利用実数、稼働率利用実績は以下のとおりである。

2024年度	営業日数	国保連請求額	利用実数	稼働率(%) ※	備考
4月	25	¥1,364,744	192	76.8	
5月	24	¥1,328,328	189	78.8	
6月	25	¥1,558,635	187	74.8	
7月	26	¥2,628,580	228	87.7	※加算請求の開始
8月	20	¥1,907,550	159	79.5	
9月	23	¥2,584,060	224	97.4	
10月	26	¥2,917,229	257	98.8	
11月	24	¥2,574,875	223	92.9	
12月	22	¥2,531,701	218	99.1	
1月	22	¥2,305,658	207	94.1	
2月	22	¥2,237,579	201	91.4	
3月	25	¥2,405,891	217	86.8	
<b>合計</b>	<b>284</b>	<b>¥26,344,830</b>	<b>2502</b>	<b>88.1</b>	

<参考>	国保連請求額	利用実数	稼働率(%)	
2023年度	¥21,156,118	2373	83.6	1年間 児発管不在
2022年度	-	2450	86.6	

※ 稼働率=1か月の延べ利用者数÷(営業日数×1日の利用定員)×100

※ 1日当たりの利用人数が「利用定数×150%以上」、3か月間の利用人数の平均が「定数+3名以上」になると減算となる。

2023年に比べて2024年度の年間収入実績、利用実績、稼働率はともに伸びたが、2025年度の更なる増収と稼働率の向上に向けた課題は以下のとおりである。

- ① 専門的実施加算が取れていない。(専門的実施計画書の作成と保護者の承諾が必要である)
- ② 長期休暇中(夏休み・冬休み・春休み)の利用児が少ない。
- ③ 平日の利用登録数は11名~14名/1日だが、欠席が多い利用児が複数名いる。
- ④ 土曜日の利用登録数は4名/1日だが、利用実数は0~2名/1日である。しかし、定員数(利用人数の平均)の遵守が必要なため、土曜日の受け入れは積極的に行えない。

### 3. 行事報告

- ① 事業所外活動(福島空港、猪苗代、映画館、外食、買い物、ムシテックワールド見学等)
- ② 事業所内活動(クリスマス会、公園散歩、製作、クッキング、郡山ファイヤーボンズとのコラボレーション、避難訓練、国際日本語学科の留学生との交流会等)

### 4. 研修報告

<事業外研修>

- ① 2024.6 児童発達支援管理責任者基礎研修・相談支援 受講者:1名(田中良)
- ② 2024.11 感覚統合入門講習(基礎コース) 受講者:4名(古川、村上、鹿目、高田)
- ③ 2024.11 児童発達支援管理責任者実践研修 受講者:1名(古川)
- ④ 2024.11 PECS レベル1 ワークショップ 受講者:1名(佐川)

- ⑤ 2024.11 強度行動障害支援者養成研修 受講者：1名（村上）
- ⑥ 2024.12 児童福祉施設職員研修「子どもの虐待と施設内虐待の予防について」  
受講者：2名（古川、佐川）
- ⑦ 郡山市希望ヶ丘学園療育研修会 受講者：6名  
2024.6 「虐待について」（高田）、「保護者支援」（古川）  
2024.8 「気になる子の保護者さんとの向き合い方」（佐川）  
2024.9 「あそびについて」（村上、伊東果）  
2024.10 「食事について」（鹿目）
- ⑧ 郡山市市政100周年記念事業 子育て応援特別講演会（講師・森川先生）  
2024.5 第2回目 受講者：古川、佐川、鹿目、高田  
2024.9 第3回目 受講者：古川、佐川、村上、高田、橋本  
2025.1 第4回目 受講者：古川、村上、鹿目、高田、橋本
- ⑨ 2025.3 第11回 小児診療多職種学会 参加者 2名  
ポスター発表：田中（良）  
口述発表：田中（絹）

<法人内研修>

- (ア) こども未来学科教員（小坂）「障害児保育」の聴講 2名：（村上、鹿目）
- (イ) 作業療法学科教員（田中絹）「人間発達学」の聴講 2名：（村上、鹿目）

<事業所内研修>

- ① 2024.3 虐待・身体拘束について 講師：田中（絹） 受講者：3名（伊東進、吉田、栗林）

5. その他

- ① 本事業所顧問の田畝氏が1回/2ヵ月程度来所され、利用児の状況や会計業務等について助言をいただいている。
- ② 本学顧問の（株）奏音 森川氏とわんぱく東都のスタッフとのオンラインミーティングを開催した。  
4～8月 利用者についての相談、療育環境についての講義・アドバイスなど  
9～12月 児童発達支援事業所の開設に向けたアドバイス・オンラインによる施設見学  
※郡山市政100周年記念事業の講演会の前後に森川氏とスタッフミーティングを開催した。
- ③ 児童発達支援事業所申請にあたり、「感染対策マニュアル」「虐待防止マニュアル」「防災マニュアル」「事業継続計画（感染・防災）」の見直しを行った。

7-5 【にじいろ東都学園ユーススクール】

定 員：10名  
登録利用児（人）数：2名  
職 員 数：2名 + 全教職員：特長を生かして係わる

1. 2024年度の振り返りについて

当スクールの利用について問い合わせが数件あったものの、利用にはつながらず利用児は2名であった。

利用二年目の小学5年生女兒については、コミュニケーションは相変わらず首を振っての応答であったが、スタッフに対して笑顔を表出できるようになった。また、学習面では極短時間での復習になった。本人の好きなこと、やりたいことを大切にしていた。

利用初年度の小学6年生男児については、利用当初はコミュニケーションを取ることに大変苦労した。コミュニケーション能力の改善では、様々な話題を取り上げて双方向の会話を繰り返して行うことによりその能力が向上した。また姿勢も悪く猫背の気になる状態であった。猫背改善のために運動や遊びに工夫を凝らしながら取り組んだ結果、1年ではあるが猫背は大幅に改善され、保護者からも驚きと喜びそして感謝の言葉を頂いた。学習面においては、当該児童は卒業年次であることから、現状学習で身につけている知識を測りながら最低限ではあるが小学校で必要な基本的知識について、特に算数と国語の復習を主とした支援を行った。その他の能力として、「集中力」「思考力」「認知能力」を養うことを目的に、迷路遊びや間違い探し等の課題を多く取り入れた取り組みを行った。経験、回数を重ねることにより、終了するまでの時間がかなり短縮された。

## 2. 利用実績

### ○ Hさん (小学5年生女児)

診断：ASD、ADHD、学校での場面緘黙の診断あり。

親の希望：

〈月別利用実績〉

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
7回	9回	7回	8回	7回	7回	5回	5回	4回	4回	6回	2回	71回

〔活動内容〕

#### ① 学習面

○算数 (掛け算九九、簡単な計算問題を主とした復習)

○工作 (季節ごとの折り紙・立体折り紙制作、ペーパーフラワー制作、切り絵)

#### ②運動面

ストレッチ体操

ボール遊び

#### ② 校外活動

福島空港、猫カフェ、ペットショップ、公園等へドライブ及び散歩

#### ③ カード遊び、ゲーム等

#### ④ YouTube の鑑賞 (好きなグループ)

### ○ Kさん (小学6年生男児)

診断：ASD、LD、コミュニケーションが苦手。

親の希望：学習、社会性、生活面での支援

〈月別利用実績〉

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17回	19回	18回	22回	18回	24回	26回	23回	22回	21回	21回	21回	252回

〔活動内容〕

#### ①学習面

○国語 (漢字の読み書き、筆順、ことわざ、簡単な文法・複合語、国語辞典で意味を調べる)、本の読み聞かせ

○算数 (3～5年生までの復習を主とした計算問題の復習、分数のかけ算・わり算)

○理科 (気候、人体、簡単な実験)

○社会 (都道府県及びその特色、地図記号)

○英語 (アルファベット及びパソコン入力、12月までの英語表現、動物の単語)

- 工作（季節ごとの折り紙制作、空き箱及び段ボールを利用した制作）
- パソコンを利用して調べもの

## ②運動面

本学体育施設等を利用し体育館での球技及びスポーツマシニング室でウォーキングや筋トレを実施、猫背の改善及び筋力と体幹能力の向上を図った。

## ③校外活動

福島空港、猫カフェ、ペットショップ、、公園等へ散歩

## ④カード遊び、ゲーム等

⑤間違い探しや迷路遊びを利用して、思考力、認知能力、集中力を養う

## ⑥その他

卒業文集の小学校の思い出を作文及び卒業記念のオルゴール制作の支援

## 3. 行事報告

社会との触れ合いを主として活動

- 猫カフェねこひげで猫と触れ合い（郡山市内）
- 福島空港の見学（玉川村）
- ジュピアランドひらたの見学（平田村）
- 乙字ヶ滝見学（須賀川市）
- クリスマス会（折り紙、段ボール等を利用してクリスマスの飾り付け及びカップケーキの作製（教職員も参加）
- バレンタインデーで手作りチョコレートにチャレンジ
- ホワイトデーで手作りパンケーキにチャレンジ
- マクドナルドやミスタードーナツでの買物体験
- ペットショップを訪問（郡山市内）
- 車及び徒歩で公園へ（開成山公園、他）

## 4. 研修報告

- 9月8日（日）わんぱく東都学園放課後等デイサービス事業所と合同で、森川敦子顧問を講師として発達障害（1）について研修
- 1月11日（土）わんぱく東都学園放課後等デイサービス事業所と合同で、森川敦子顧問を講師として発達障害（2）について研修

## 8. 財務の概要

別紙のとおり。

貸借対照表

令和 7年 3月31日 現在

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	2,501,946,615	2,535,764,815	△ 33,818,200
有形固定資産	2,455,127,577	2,514,609,597	△ 59,482,020
土地	564,669,568	564,669,568	0
建物	1,817,016,141	1,860,811,678	△ 43,795,537
構築物	3,140,247	4,183,587	△ 1,043,340
教育研究用機器備品	9,996,232	13,703,108	△ 3,706,876
その他の機器備品	12,697,868	20,453,077	△ 7,755,209
図書	42,385,050	42,385,050	0
車輛	5,222,471	8,403,529	△ 3,181,058
建設仮勘定	0	0	0
その他の固定資産	46,819,038	21,155,218	25,663,820
電話加入権	1,137,284	1,137,284	0
ソフトウェア	742,794	1,061,134	△ 318,340
差入敷金保証金	10,899,960	6,928,800	3,971,160
出資金	5,010,000	5,010,000	0
長期前払費用	6,292,000	7,018,000	△ 726,000
保険積立金	22,737,000	0	22,737,000
流動資産	204,385,201	303,937,448	△ 99,552,247
現金及び預金	172,901,826	251,222,718	△ 78,320,892
未収入金	16,156,957	18,065,100	△ 1,908,143
貯蔵品	940,342	723,213	217,129
前払費用	12,734,160	10,484,391	2,249,769
立替金	59,556	386,155	△ 326,599
仮払金	1,592,360	23,055,871	△ 21,463,511
資産の部合計	2,706,331,816	2,839,702,263	△ 133,370,447

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	638,704,082	674,538,109	△ 35,834,027
長期借入金	614,455,032	640,624,849	△ 26,169,817
長期未払金	15,834,050	25,950,360	△ 10,116,310
退職給付引当金	8,415,000	7,962,900	452,100
流動負債	692,226,554	717,557,790	△ 25,331,236
短期借入金	188,985,124	180,023,874	8,961,250
未払金	76,376,396	86,991,154	△ 10,614,758
前受金	411,534,480	432,804,600	△ 21,270,120
預り金	15,330,554	17,738,162	△ 2,407,608
負債の部合計	1,330,930,636	1,392,095,899	△ 61,165,263
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金			
第1号基本金	3,991,197,201	3,990,528,401	668,800
繰越収支差額			
翌年度繰越収支差額	△ 2,615,796,021	△ 2,542,922,037	△ 72,873,984
純資産の部合計	1,375,401,180	1,447,606,364	△ 72,205,184
負債及び純資産の部合計	2,706,331,816	2,839,702,263	△ 133,370,447

事業活動収支計算書

令和 6年 4月 1日から  
令和 7年 3月31日まで

(単位:円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教 育 活 動 収 入 の 部		学生生徒等納付金	( 698,270,000 )	( 664,215,000 )	( 34,055,000 )
		授業料	394,000,000	375,540,000	18,460,000
		入学金	21,550,000	21,175,000	375,000
		施設設備資金	112,540,000	106,850,000	5,690,000
		実験実習料	170,180,000	160,650,000	9,530,000
		手数料	( 6,450,000 )	( 5,304,790 )	( 1,145,210 )
		入学検定料	5,000,000	4,002,000	998,000
		試験料	1,000,000	1,029,000	△ 29,000
		証明手数料	450,000	273,790	176,210
		寄付金	( 0 )	( 660,000 )	( △ 660,000 )
		特別寄付金	0	660,000	( △ 660,000 )
		一般寄付金	0	0	( 0 )
		経常費等補助金	( 69,200,000 )	( 61,905,830 )	( 7,294,170 )
		国庫補助金	10,000,000	0	10,000,000
		福島県補助金	21,000,000	14,204,000	6,796,000
		市補助金	200,000	47,701,830	△ 47,501,830
		保育給付費収入	38,000,000	0	38,000,000
		付随事業収入	( 36,500,000 )	( 39,892,460 )	( △ 3,392,460 )
		附属事業収入	36,000,000	39,892,460	△ 3,892,460
		受託事業収入	500,000	0	500,000
雑収入	( 45,500,000 )	( 77,193,495 )	( △ 31,693,495 )		
施設設備利用料	1,000,000	0	1,000,000		
受取家賃収入	34,000,000	30,339,347	3,660,653		
その他の雑収入	10,500,000	46,854,148	△ 36,354,148		
教育活動収入計			855,920,000	849,171,575	6,748,425
教 育 活 動 収 支 の 部		科 目	予 算	決 算	差 異
		人件費	( 440,280,000 )	( 440,223,533 )	( 56,467 )
		教員人件費	260,830,000	250,770,571	10,059,429
		職員人件費	147,320,000	155,354,359	△ 8,034,359
		役員報酬	31,530,000	33,139,146	△ 1,609,146
		退職給与引当金繰入額	600,000	452,100	147,900
		退職金	0	507,357	△ 507,357
		教育研究経費	( 98,590,000 )	( 97,060,382 )	( 1,529,618 )
		消耗品費	8,000,000	1,686,191	6,313,809
		奨学金	49,370,000	49,583,000	△ 213,000
		旅費交通費	2,000,000	1,311,742	688,258
		通信運搬費	220,000	275,750	△ 55,750
		出版物費	900,000	1,265,337	△ 365,337
		賃借料	1,200,000	1,200,000	0
		福利費	4,000,000	396,452	3,603,548
		渉外費	50,000	251,829	△ 201,829
		報酬委託手数料	3,000,000	827,880	2,172,120
		研究費	600,000	729,827	△ 129,827
		行事費	1,200,000	1,151,974	48,026
		教材費	5,000,000	8,133,784	△ 3,133,784
諸会費	500,000	827,720	△ 327,720		
実習費	18,500,000	25,343,574	△ 6,843,574		
修繕費	0	896,826	△ 896,826		
減価償却費	4,000,000	3,150,628	849,372		
雑費	50,000	27,868	22,132		
管理経費	( 304,880,000 )	( 370,959,626 )	( △ 66,079,626 )		
消耗品費	18,900,000	21,268,222	△ 2,368,222		
水道光熱費	21,200,000	23,760,432	△ 2,560,432		
旅費交通費	16,000,000	22,517,673	△ 6,517,673		
車輛燃料費	3,600,000	4,686,824	△ 1,086,824		

部	福利費	4,800,000	10,771,901	△ 5,971,901	
	通信運搬費	5,400,000	4,458,770	941,230	
	保険料	8,010,000	14,933,448	△ 6,923,448	
	公租公課	800,000	889,230	△ 89,230	
	広報費	24,100,000	32,858,065	△ 8,758,065	
	諸会費	1,200,000	1,440,696	△ 240,696	
	渉外費	28,500,000	26,960,902	1,539,098	
	リース料	1,100,000	2,063,941	△ 963,941	
	保守管理費	21,400,000	25,094,955	△ 3,694,955	
	修繕費	20,500,000	36,362,665	△ 15,862,665	
	報酬委託手数料	37,000,000	42,994,419	△ 5,994,419	
	賃借料	35,600,000	39,428,797	△ 3,828,797	
	出版物費	170,000	315,882	△ 145,882	
	減価償却費	55,500,000	57,318,532	△ 1,818,532	
	受託事業支出	0	0	0	
	雑費	1,100,000	2,834,272	△ 1,734,272	
	徴収不能額等	( 0 )	( 0 )	( 0 )	
徴収不能引当金繰入額	0	0	0		
徴収不能額	0	0	0		
教育活動支出計	843,750,000	908,243,541	△ 64,493,541		
教育活動収支差額	12,170,000	△ 59,071,966	71,241,966		
教育活動外収入	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	( 50,000 )	( 536,005 )	( △ 486,005 )
		その他受取利息・配当金	50,000	536,005	△ 486,005
		その他の教育活動外収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )
	教育活動外収入計	50,000	536,005	△ 486,005	
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	( 12,100,000 )	( 13,669,223 )	( △ 1,569,223 )
		借入金利息	12,100,000	13,669,223	△ 1,569,223
		その他の教育活動外支出	( 0 )	( 0 )	( 0 )
	教育活動外支出計	12,100,000	13,669,223	△ 1,569,223	
教育活動外収支差額	△ 12,050,000	△ 13,133,218	1,083,218		
経常収支差額	120,000	△ 72,205,184	72,325,184		
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	( 0 )	( 0 )	( 0 )
		施設売却差額	0	0	0
		設備売却差額	0	0	0
		投資有価証券売却差額	0	0	0
		その他特別収入	( 0 )	( 0 )	( 0 )
	受取損害賠償金	0	0	0	
	特別収入計	0	0	0	
	事業活動支出の部	資産処分差額	( 0 )	( 0 )	( 0 )
		施設処分差額	0	0	0
		設備処分差額	0	0	0
その他特別支出		( 0 )	( 0 )	( 0 )	
補助金返還損失	0	0	0		
特別支出計	0	0	0		
特別収支差額	0	0	0		
基本金組入前当年度収支差額	120,000	△ 72,205,184	72,325,184		
基本金組入額	△ 10,000,000	△ 668,800	△ 9,331,200		
当年度収支差額	△ 9,880,000	△ 72,873,984	62,993,984		
前年度繰越収支差額	△ 2,480,000,000	△ 2,542,922,037	62,922,037		
基本金取崩額	0	0	0		
翌年度繰越収支差額	△ 2,489,880,000	△ 2,615,796,021	125,916,021		

(参考)

事業活動収入計	855,970,000	849,707,580	6,262,420
事業活動支出計	855,850,000	921,912,764	△ 66,062,764

## 財 産 目 録

令和7年 3月31日現在

Ⅰ 資産総額		2,706,331,816円
1 基本財産		2,455,127,577円
2 運用財産		251,204,239円
Ⅱ 負債総額		1,330,930,636円
Ⅲ 正味財産		1,375,401,180円
一 資産額		
(1)基本財産		
1 土地	校舎敷地	564,669,568円
2 建物	校舎	1,817,016,141円
3 構築物		3,140,247円
4 教育研究用機器備品		9,996,232円
5 その他の機器備品		12,697,868円
6 図書		42,385,050円
7 車輛		5,222,471円
	小計	2,455,127,577円
(2) 運用財産		
1 電話加入権		1,137,284円
2 ソフトウェア		742,794円
3 差入敷金保証金		10,899,960円
4 出資金		5,010,000円
5 長期前払費用		6,292,000円
6 保険積立金		22,737,000円
7 預金、現金		172,901,826円
現金		3,400,072円
普通・当座預金		121,741,558円
定期預金・通知預金		47,760,196円
8 未収入金		16,156,957円
9 貯蔵品		940,342円
10 前払費用		12,734,160円
11 立替金		59,556円
12 仮払金		1,592,360円
	小計	251,204,239円
	資産総額	2,706,331,816円
二 負債額		
(1)固定負債		
1 長期借入金		614,455,032円
2 長期未払金		15,834,050円
3 退職給与引当金		8,415,000円
	小計	638,704,082円
(2) 流動負債		
1 短期借入金		188,985,124円
2 未払金		76,376,396円
3 前受金		411,534,480円
学納金前受金		411,124,480円
その他前受金		410,000円
4 預り金		15,330,554円
	小計	692,226,554円
	負債総額	1,330,930,636円

## 監査報告書

令和7年5月27日

学校法人こおりやま東都学園  
理事会 御中  
評議員会 御中

学校法人こおりやま東都学園

監事 谷口英太郎  
監事 谷本俊隆

私たちは、学校法人こおりやま東都学園の監事として、改正私立学校法附則第4条第1項により、令和6年度決算に係る貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書の作成、備置き、閲覧、公表、理事会への提出並びに評議員会への提出及び報告については、なお従前の例によることから、旧私立学校法及び旧寄附行為（旧私立学校法（令和5年5月8日施行）第37条第3項及び学校法人こおりやま東都学園旧寄附行為（令和6年5月16日施行）第20条第4項の規定）に基づき、同学校法人の令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属明細表を含む）を対象に学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査を行いました。

私たちは、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事等から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人こおりやま東都学園の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは旧寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めましたので、ここに私たち監事による監査報告書を提出します。